

# 令和7年度全国学力・学習状況調査の調査結果について

令和8年3月31日  
足立区教育委員会  
学力定着推進課

文部科学省が実施した「令和7年度全国学力・学習状況調査」の調査結果について、以下のとおりお知らせします。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 実施方式および実施日

(1) 冊子方式：令和7年4月17日（木）

【小学校】国語、算数、理科

【中学校】国語、数学

(2) CBT方式（コンピュータ使用型調査方式）

下記のうち、あらかじめ指定された日に実施

【小学校】児童質問調査 令和7年4月18日～30日

【中学校】理科、生徒質問調査 令和7年4月14日～17日

## 3 調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年（原則として全児童生徒）

足立区実施校数：小学校67校、中学校35校（全校実施）

足立区調査人数

（単位：人）

科目 対象学年	国語	算数・数学	理科	児童生徒 質問調査
小学6年生	4,628	4,629	4,629	4,527
中学3年生	3,901	3,900	3,916	3,933

## 3 調査事項

(1) 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

(ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

(イ) 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※ 出題内容は、上記（ア）と（イ）を一体的に出題。

イ 質問調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査を実施。

(2) 学校に対する質問調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査を実施。

#### 4 「教科に関する調査」の概要

(1) 小学校 各教科の平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
足立区	<b>65.7</b>	<b>59.4</b>	<b>54.7</b>
全国（公立）	66.8	58.0	57.1
東京都（公立）	70	64	60

(2) 中学校

ア 各教科の平均正答率 (%)

	国語	数学
足立区	<b>53.6</b>	<b>47.3</b>
全国（公立）	54.3	48.3
東京都（公立）	57	53

イ 理科（CBT方式）

IRT スコア	足立区	全国 (公立)	東京都 (公立)
	<b>486</b>	503	506

#### 数値について

平成29年度以後、文部科学省による報道発表では、各地方自治体の平均正答率は整数値で公表されています。

足立区においては、より緻密に全国値と比較するため、上記の表では足立区の受検児童・生徒の平均正答数をもとに平均正答率を小数点1位（端数は四捨五入）まで計算して公表します。

中学校理科は、CBT で実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示しています。

<用語の解説>

語句	説明
平均正答数	児童生徒の正答数の平均
平均正答率	平均正答数を百分率で表示 ○ 国語、算数・数学、理科ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を問題数で割った値の百分率（概数） ○ 学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、問題ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率
全国（公立）	全国の公立学校
全国平均値	全国（公立）における平均正答率
IRT（項目反応理論）	児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを 区別して分析し、児童生徒の学力スアを推定する統計理論
平均 IRT スコア	IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表すもの

## 5 教科ごとの調査結果及び正答状況から見た現状と課題

### 小学校6年生【国語】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)			
			足立区	全国 (公立)	東京都 (公立)	
全体		14	65.7	66.8	70	
学習 指導 要領 の 内容	知識 及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	75.3	76.9	77.9
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	63.5	63.1	66.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	80.2	81.2	83.8
	思考力 判断力 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	66.0	66.3	69.9
		B 書くこと	3	69.2	69.5	72.4
		C 読むこと	4	55.2	57.5	61.0
評価の観点	知識・技能	4	73.6	74.5	76.6	
	思考・判断・表現	10	62.6	63.8	67.1	
	主体的に学習に取り組む態度	0				

※ この調査では、一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しません。このため、各区分の平均正答率を平均しても全体の平均正答率と一致しません。

#### 調査から見た課題

##### (1) 正答状況

ア 区の平均正答率は、全国値を1.1ポイント下回った。令和6年度は、2.0ポイント差であり、全国値との差を縮める結果であった。

イ 「評価の観点」ごとの平均正答率は、「知識・技能」0.9ポイント、「思考・判断・表現」1.2ポイントと全国値をそれぞれ下回った。

##### (2) 領域「読むこと」について

ア 「思考力・判断力・表現力等」のうち「読むこと」の平均正答率が55.2%と低く、全国値を2.3ポイント下回っている。

イ 「目的に応じて文章と図表などを結び付け、必要な情報を見付ける問題」の正答率が、45.8%と「読むこと」で最も低く全国値(56.3%)を10.5ポイント下回った。

##### (3) 見えてきた課題

目的に応じて、文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることのできる力を育成する必要がある。

#### 学習指導のポイント

読み取った資料の内容を活かして、自分の問題意識をアウトプットできるように学習を進めていくことが重要である。提示されたテーマについて、自分なりの意見や感想、問いをもつとともに、複数の資料からその裏付けとなるものを取捨選択し、活用できるよう学習指導を進めたい。

#### 授業アイデア例

例えば、児童の興味・関心を引き出しやすい自然や動物に関する教材を準備し、筆者の論の進め方について自分なりの考えをもち、友達との話し合いをとおして自己の考えを広め、深めることのできる学習活動が有効である。その際、図表、グラフ、写真等の資料がもたらす効果を多面的・多角的に考えながら読むことができるよう、児童一人ひとりの活動時間を十分に確保するとともに、まとめたことを積極的に表現する場面を設定することが重要となる。

## 小学校6年生【算数】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			足立区	全国 (公立)	東京都 (公立)
全体		16	59.4	58.0	64
学習指導要領の 領域	A 数と計算	8	63.6	62.3	68.3
	B 図形	4	57.0	56.2	61.2
	C 測定	2	55.6	54.8	60.5
	C 変化と関係	3	59.7	57.5	64.9
	D データの活用	5	62.9	62.6	67.6
評価の観点	知識・技能	9	66.4	65.5	70.9
	思考・判断・表現	7	50.1	48.3	54.4
	主体的に学習に取り組む態度	0			

※ この調査では、一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しません。このため、各区分の平均正答率を平均しても全体の平均正答率と一致しません。

### 調査から見た課題

#### (1) 正答状況

- ア 全体では、区の平均正答率が全国値を1.4ポイント上回った。
- イ 「知識・技能」では、平均正答率が全国値を0.9ポイント、「思考・判断・表現」では、全国値を1.8ポイント上回った。

#### (2) 「測定」について

- ア 他の領域と比較して、「測定」の領域が平均正答率55.6%と低い。
- イ 『伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見いだし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる』問題は、「測定」とともに「数と計算」「変化と関係」「データの活用」の領域に関連する問題であるが、平均正答率が49.8%（全国値は48.7%）と低い。

#### (3) 見えてきた課題

複数の情報から状況に応じて必要な数量を見いだし、それらの関係を数学的に表現できるようにすることが課題である。

### 学習指導のポイント

問題場面から、調べたい数量を整理し、依存関係のある数量に着目して、それらの数量の関係を図、式、言葉の式等に表現する場を設定することが大切である。

### 授業アイデア例

- (1) 複数の情報から問題の解決に必要な二つの数量を見いだし、表などを用いてそれらの二つの数量が伴って変わる数量であることを明らかにする場面を設定することで、依存関係を捉えられるようにする。
- (2) 二量の間を捉えるために、絵や図を用いて、ハンドソープの重さと容器の重さと液体の重さの関係を捉える場面を設定する。また、液体の重さと1プッシュ分のハンドソープの液体の重さの関係をj用いて、空になるまでにあと何プッシュすることができるのかの求め方を、式や言葉の式に表す場面を設定する。

## 小学校6年生【理科】

分類	区分	対象 問題 数 (問)	平均正答率 (%)		
			足立区	全国 (公立)	東京都 (公立)
全体		17	54.7	57.1	60
学習 指導 要領 の区 分・領 域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	45.2	46.7	49.9
		「粒子」を柱とする領域	49.3	51.4	53.7
	B区分	「生命」を柱とする領域	47.5	52.0	54.1
		「地球」を柱とする領域	64.6	66.7	69.1
評価の観点	知識・技能		52.2	55.3	57.7
	思考・判断・表現		56.6	58.7	61.2
	主体的に学習に取り組む態度		0		

※ この調査では、一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しません。このため、各区分の平均正答率を平均しても全体の平均正答率と一致しません。

### 調査から見た課題

#### (1) 正答状況

- ア 全体では、区の平均正答率が全国値を2.4ポイント下回り、前回調査（令和4年度）より、下回った。
- イ 「知識・技能」では、平均正答率が全国値を3.1ポイント下回った。
- ウ 「思考・判断・表現」では、平均正答率が全国値を2.1ポイント下回った。

#### (2) 見えてきた課題

足立区の平均正答率は54.7%で、全国の57.1%や東京都の60%と比較して、やや下回りました。特に記述式問題や特定の学習領域において課題が見られる点にあります。

観点別に見ると、「知識・技能」の52.2%に対し、「思考・判断・表現」は56.6%と数値上は上回っていますが、問題形式別の分析では「記述式」の正答率が44.0%にとどまっており、全国(45.2%)や東京都(46.6%)と開きがあることが特徴です。

具体的には、実験結果を基に結論を導いた理由を記述する問題や、種子の発芽に関する気付きから新たな問題を見いだして書く問題などで、全国平均を下回る傾向にあります。

領域別では、「地球」領域(64.6%)が比較的良好な一方で、「エネルギー」領域(45.2%)が低く、特にアルミニウムや鉄などの金属の性質を判別する設問(2(1))では正答率が9.1%と極めて低い状況です。

学力の分布においては、正答数が0～6問の層が全国や東京都に比べて厚く、学習に困難を抱える児童への支援が必要です。

### 学習指導のポイント

自ら課題を設定し、予想や実験計画を立て、根拠に基づき論理的に記述する活動を重視するとともに、振り返りで学びの変容と言語化を促し、問題解決的な授業を充実させることが大切です。

## 授業アイデア例

正答率が低かった「種子の発芽」や「金属の性質」等では、導入の「めあて」で、単に知識を提示するのではなく、観察を通して児童自らが解決すべき課題を設定する活動を重視します。次に、「見通し・計画」の段階においては、実験方法等を構想し、結果を予想させる場面を意図的に設定することで、全国平均を下回っている「エネルギー」領域の理解や探究の質を高めることが重要です。特に、本区の課題である「記述式」問題への対策として、「考察・結論」の場面においては、実験結果という根拠と結論を論理的に結びつけて表現する活動を積み重ねます。

「振り返り」では、「学びの変容」を定着させるため、当初の予想と結果を比較し、新たに生じた疑問を言語化させる指導が重要です。

## 中学校3年生【国語】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率 (%)			
			足立区	全国 (公立)	東京都 (公立)	
全体		14	53.6	54.3	57	
学習 指導 要領 の 内容	知識 及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	46.7	48.1	51.7
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力 判断力 表現力等	A 話すこと・聞くこと	4	52.0	53.2	55.0
		B 書くこと	5	53.1	52.8	56.5
		C 読むこと	3	62.1	62.3	65.0
評価の観点	知識・技能	2	46.7	48.1	51.7	
	思考・判断・表現	12	55.0	55.3	58.1	
	主体的に学習に取り組む態度	0				

※ この調査では、一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しません。このため、各区分の平均正答率を平均しても全体の平均正答率と一致しません。

### 調査から見た課題

#### (1) 正答状況

- ア 全体では、区の平均正答率が全国値を0.7ポイント下回った。令和6年度は、0.6ポイント差であり、ほぼ横ばいの状況である。
- イ 「評価の観点」ごとの平均正答率は、「知識・技能」1.4ポイント、「思考・判断・表現」0.3ポイントと全国値をそれぞれ下回った。

#### (2) 領域「書くこと」について

- ア 「思考力・判断力・表現力等」のうち「書くこと」の平均正答率は、53.1%と全国値を0.3ポイント上回ったものの、一部全国値を下回る問題がある。
- イ 「読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて文章を整える問題」の正答率が、26.9%と「書くこと」の中で最も低く、無解答率も22.3%と高い。

#### (3) 見えてきた課題

手紙などの下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正したり、その理由を説明したりすることのできる力を育成する必要がある。

### 学習指導のポイント

文章を書くときには、相手意識と目的意識が大切であるが、通信文では特にそれが強く求められる。「どのような言葉遣いが適切か」、「どのように表現すれば思いや用件が伝わるか」などを考えながら書くとともに、書いた文章を自身で推敲する習慣を身に付けられるようにすることが重要である。

### 授業アイデア例

例えば、手紙や電子メールを題材として、相手や目的に応じて通信手段を選び、自分の思いや用件が的確に伝わるように表現を工夫して書く学習活動が考えられる。書いた文章については、友達と読み合い、敬語の使い方や表現の工夫について確認し、意見を交わすようにすることが、資質・能力を身に付ける上で重要となる。

## 中学校3年生【数学】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			足立区	全国 (公立)	東京都 (公立)
全体		15	47.3	48.3	53
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	41.7	43.5	49.1
	B 図形	4	45.4	46.5	51.4
	C 関数	3	46.4	48.2	52.4
	D データの活用	3	59.7	58.6	63.1
評価の観点	知識・技能	9	52.7	54.4	58.3
	思考・判断・表現	6	39.0	39.1	45.4
	主体的に学習に取り組む態度	0			

※ この調査では、一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しません。このため、各区分の平均正答率を平均しても全体の平均正答率と一致しません。

### 調査から見た課題

#### (1) 正答状況

- ア 全体では、区の平均正答率が全国値を1.0ポイント下回った。
- イ 「知識・技能」では、平均正答率が全国値を1.7ポイント、「思考・判断・表現」では、全国値を0.1ポイント下回った。

#### (2) 「数と式」について

- ア 他の領域と比較して、「数と式」の領域が平均正答率41.7%と低い。
- イ 『式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる』問題の平均正答率が26.6%（全国値は、25.7%）と全設問中で最も低い。

#### (3) 見えてきた課題

式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する力に課題がある。

### 学習指導のポイント

連続する二つの数の和がどのような数になるかを、文字式を用いて考察する場面を設定することが大切である。

### 授業アイデア例

- (1)  $3n + 3n + 3 = 3(2n + 1)$  と変形した式を取り上げ、 $3 \times$ （整数）になっていることに気付く場面を設定し、「連続する2つの3の倍数の和は、3の倍数になる」ことを捉えられるようにする。
- (2)  $3(2n + 1)$  の「 $2n + 1$ 」に着目して『 $2 \times$ （整数）+ 1』となっていることから、「奇数の3倍になる」と読み取るなど、新たに分かることを見いだす場面を設定し、式の意味を多様に考えられるようにする。

## 中学校3年生【理科】

平均 IRT スコア※		
足立区	全国（公立）	東京都（公立）
486	503	506

※1 テストの問題によって点数が上下するのを防ぐため、統計学を用いて算出した数値です。正解した問題の難しさに応じてスコアが決まります。

※2 中学校理科は、生徒ごとに異なる問題を解いています。

（全日程に共通する問題 6 問+実施日により異なる問題 4 問（16 問から出題）+非公開問題 16 問）。

### 調査から見た課題

#### （1）正答状況

ア 足立区の平均正答数は、共通問題（※2）6問のうち 2.8 となっており、全国（2.9）や東京都（2.9）の数値と同程度です。一方で、IRT（項目反応理論）に基づいたスコアで見ると、以下のようになっています。

足立区：486      全国：503      東京都：506

イ 平均 IRT スコアでは足立区は東京都や全国の平均を下回る傾向にあります。

ウ 「知識・技能」は、足立区は 64.7%で、全国 66.7%、東京都 67.9%を下回りました。

エ 「思考・判断・表現等」では、足立区では 36.3%で、全国 38.8%、東京都 39.5%を下回りました。

#### （2）見えてきた課題

理科における学力状況は、平均正答数こそ全国や東京都と同等ですが、能力の尺度を示す平均 IRT スコアは 486（全国 503、東京都 506）と下回っており、特に下位層（IRT バンド 1・2）の割合が 36.1%と全国平均（31.5%）より高いことが大きな課題です。

内容面では、電気回路や情報の収集などの基礎的な「知識・技能」は定着しているものの、特定の単元における活用力に課題が集中しています。具体的には、「エネルギー」領域の「音の性質」12.8%「生命」領域の「植物の生活と種類」茎の断面や根の構造を推測する力（30.9%）が全国平均を大きく下回っています。さらに、「粒子」領域の「化学変化と原子・分子」においても、精製水を使う理由から自ら課題を設定して記述する力（26.7%）や、化学変化をモデルで表す力（47.4%）が不足しています。全体を通して、「地球」領域の「大地の変化」「思考・判断・表現」を伴う記述式の設問が共通の弱点となっています。

### 学習指導のポイント

音や植物、化学変化等の苦手単元を中心に、自ら課題を設定する活動に取り組み、根拠に基づき論理的に説明する記述力を養うことで、思考、判断、表現等の向上を図ることが大切です。

### 授業アイデア例

「足立スタンダード」を徹底し、特に「めあて」の設定場面で、生徒が自ら条件を制御した実験計画や結果の予想を立てる活動を意図的に組み込むことが重要です。また、観察や実験の場面で ICT 等を活用し、思考を可視化させ、科学的根拠を言葉にする活動を積むとともに、授業終末の「振り返り」の質を高めて、学びの変容や新たな疑問を言語化させる習慣を定着させる必要があります。問題解決を中心とした学習を進めることで、主体的な学習の充実を図るとともに、観察や実験を丁寧に行い、実感を伴った理解と知識の確実な定着を図る必要があります。